

市民による市民のための

日向市地域福祉計画

・・・だれもが安心して
暮らせるまちを目指して・・・



平成20年3月

日 向 市

1. 地域福祉計画策定の趣旨

高齢化が急速に進み、少子化によって日本の総人口が減少するというかつて経験したことのない時代を迎え、私たちを取り巻く社会経済環境は、大きく変化しています。

このような中、日向市では、市民福祉向上のために福祉分野の計画として、障がい者への総合的で適切な支援を行うための「新障害者プラン」、次代を担う子どもの育成を支援する「次世代育成支援行動計画」、社会全体で高齢者を支援し、自立を図るとともに、介護保険事業のサービス提供の在り方と円滑な保険給付を定めた「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、様々な事業を推進してきました。

しかし、社会経済環境の変化に伴って、人々の考え方（価値観、人生観）や暮らし方（生活様式）が変わるにつれ、不安やストレス、家庭内暴力、児童虐待、高齢者虐待、引きこもりなど生活上のいろいろな課題も複雑多様化しており、今までの計画だけでは対応が困難な状況が生まれています。

また、地域社会も変容してきており、自治会加入率の低下に代表されるような隣近所の支え合い、助け合いといったものも失われつつあるようですが、一方では、ボランティアやNPOなどの活動が活発化し、社会貢献への意識の高まりも見られます。

このような社会状況の変化を受け、本市では、既存の計画では想定していなかった部分への対応も含んだ福祉分野の総合的な計画を策定することになりました。

2. 計画の理念

日向市では平成19年に、今後10年間の市のまちづくりの基本指針となる「新しい日向市総合計画」を策定しました。総合計画では、市民との協働によりまちづくりを進めることとしており、これまでの公助中心であった行政主導による地域づくりを見直し、「自助・共助・公助」がうまく融合された社会の仕組みを構築することを目指しています。

この日向市地域福祉計画は、「新しい日向市総合計画」の下位に位置し、福祉分野の総合計画といえるものです。

行政だけではなく、市民、福祉関係の施設・事業所や団体、NPO、企業など日向市を構成するすべての方々が連携し、「個人の尊厳の保持」という考え方を基本に、『子どもから高齢者まで、障がいのあ人もない人も、市民一人ひとりが地域において自立し、いきいきとした生活を送ることができるよう、それぞれが自らの持てる力を発揮し、お互いに支えあい、だれもが住みなれた地域で安心して暮らせるまち』をつくることを理念とします。

だれもが 安心して 暮らせるまちを 目指して

まず、1. 自分でできることは自分の責任で行い〔自助〕、2. 自分だけでは解決や行うことが困難なことについて、周囲や地域が協力して行い〔共助〕、3. 個人や周囲、地域あるいは民間の力では解決できないことについて、公的機関が行うこと〔公助〕で『だれもが安心して暮らせるまち』を目指します。

3. 計画の期間

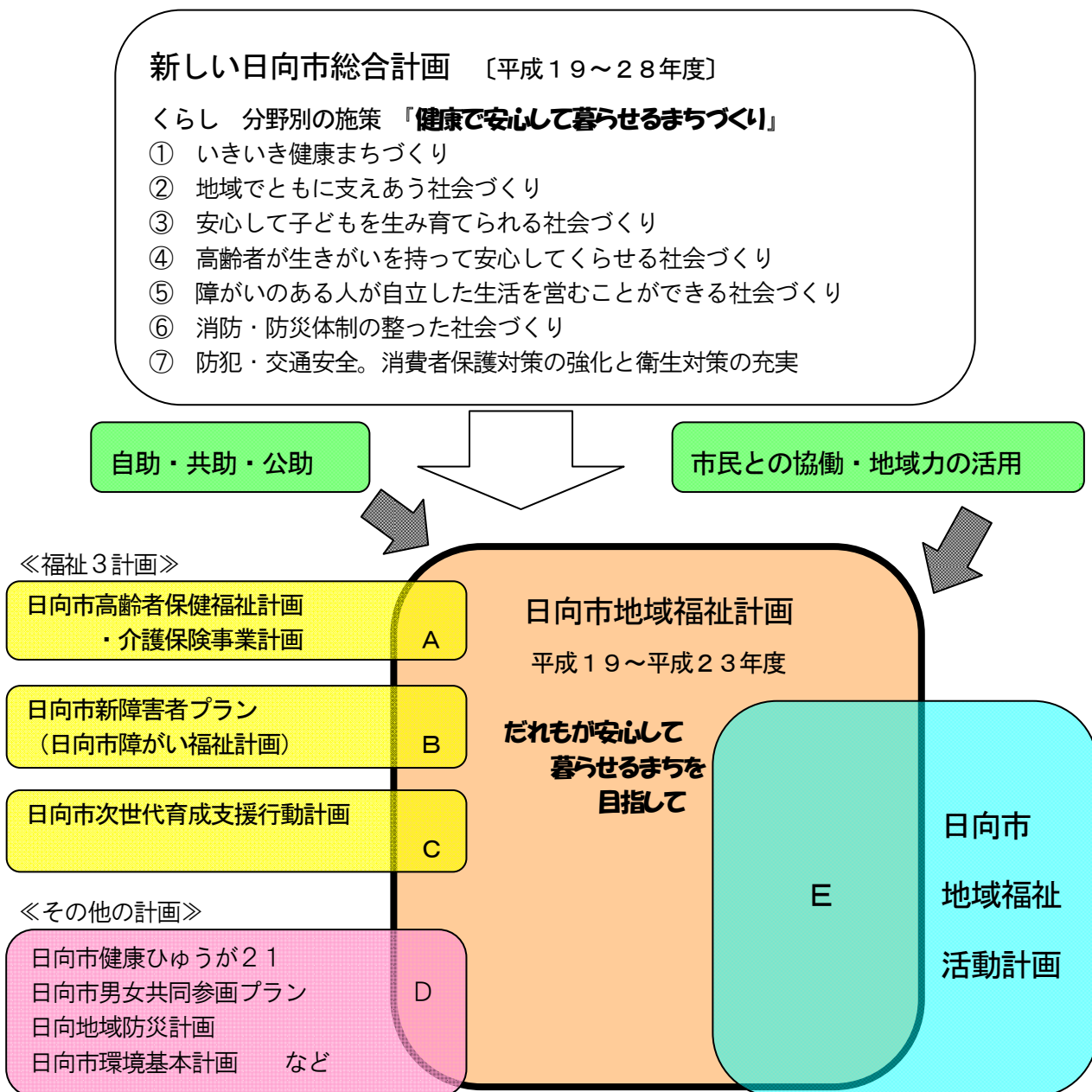
本計画は、『平成20年度から平成24年度までの5年間』としています。

ただし、福祉関係の法令や制度の改正に合わせ、必要に応じて見直しを行います。

4. 基本構想等との関係

地域福祉計画は、本市の基本構想である『新しい日向市総合計画』に掲げる分野別施策のひとつ『健康で安心して暮らせるまちづくり』を実現する施策を推進するための福祉の基本計画という性格を持っています。また、高齢者や障がい者、児童に関する分野別の福祉3計画やその他の行政計画とのすき間を埋め、補完する役目も担っており、『自助・共助・公助』、『市民との協働・地域力の活用』という理念をもとに策定しています。

日向市社会福祉協議会が策定する『地域福祉“活動”計画』は、地域という視点から“共助”の部分重視して策定したもので、本計画とは緊密な連携が必要であり、いわば“車の両輪”と言えるものです。



重なっている『A、B、C、D』の部分は、地域福祉計画が分野別の計画を補完します。
『E』の部分は、地域福祉計画と地域福祉活動計画が連携して対応します。

5. 計画の目標

だれもが 安心して 暮らせる まちを 目指して

1. 困ったことは、ここで相談（ワンストップサービス）

市民の皆さんが何か困ったことがあって市役所に相談する場合、市役所の組織や担当業務がよくわからない場合があります。一箇所の窓口で対応できるような組織体制の整備に取り組みます。また、地域を取り込んだネットワークの整備にも取り組んでいきます。

2. 人も組織もまず自分から

「行政サービス」「公的な支援（サービス）」の内容も、大きく変わりつつあります。高齢者を対象にした介護保険制度や障がい者を対象にした自立支援給付制度もすべての生活課題に対応している訳ではありません。

市民誰もが安心して暮らしていける地域社会をつくるために、自分自身、家族、そして、社会福祉法人や各種団体、企業等が行政との役割分担を理解し、自らできることは、自ら対応する取り組みを進めます。

3. 環境を整えよう

私たちが生活していく上で生活環境の整備はとても身近な課題ですが、行政がすべての意見や要望に対応して整備することは困難になっています。行政にも『選択と集中』という経営が求められる時代です。

地域の課題にきめ細かな対応をするためにも、ハード、ソフト両面で地域の資源を活用したり、地域住民の創意工夫で解決する方法にも取り組んでいきます。

4. 進めよう理解・共生

私たちは、一人では生きられません。一人ひとりが「違って」おり、その「違い」を互いに理解し、認め合って生きています。しかし、最近では、その当たり前のことが忘れ去られているようです。差別や偏見、虐待、いじめをなくすには、「本当のことを知り、理解する努力」が必要です。

基本的なことを正確に理解し、互いに尊重しあって共に暮らしていける地域づくりを進めます。

5. 支え合おう、助け合おう

地域における支え合い、助け合いは、誰もが必要性を痛感していますが、なかなか具体的な形にならない極めて難しい課題です。少子高齢化、人口減少、財政難など多様な課題を乗り越えて、“共助～支え合い・助け合い～”を基本にした地域社会づくりを進めます。

6. つながろう、助けよう

例えば、高齢者の生活の質を向上させるためには、福祉だけではなく健康を扱う保健・医療との連携が欠かせません。行政と市民が智恵を出し合い、だれもが安心して暮らせる地域社会を創るために、市民が抱える問題を起点として、専門分野、縦の組織などを超えた横の連携を強化し、拡げていきます。

7. サービスを見つけよう、見直そう、創りだそう

現在の公的福祉サービスは、日向市が独自に実施しているものもありますが、基本的には、高齢者や障がい児者、児童、母子等各分野別に決められた全国共通のものです。分野をまたぐような課題や地域に埋もれた細かな課題にまでは、対応しきれていない場合があります。既存のサービスを見直し、“公助”だけではなく、“共助”も含む新たなサービスについて、行政、関係機関、地域住民が一体となって既存のサービスを見直し、必要なものは創り出していきます。

1. 困ったことは、ここで相談（ワンストップサービス）

1. ワンストップサービスの確立

現状と課題	具体的解決策
<p>市民の皆さんが、市役所に相談や手続きをする場合、複数の課や係を回ることがあります。それぞれの担当業務が決められていますので、止むを得ないことも事実ですが、同じようなことを何度も話さなければならぬなどの不都合もあります。</p> <p>特に、「福祉の問題」ということになれば、『その人本人や家庭』という視点で考えることが必要です。</p> <p>市民が問題解決のために窓口を回るのではなく、一つの窓口で相談を受けた職員があちこち動いて関係者を集め協議し、相談者と共に問題を解決する、あるいはその手助けをする、『ワンストップサービス』を確立することが求められています。</p>	<p>① ワンストップサービス体制整備に向けて課題を整理します。</p> <p>② 市役所庁内で一部ワンストップサービス窓口の開設を試行します。</p> <p>③ 地域におけるワンストップサービス体制整備のため、(仮称)『地域保健福祉センター』の開設について検討します。</p>

2. 人も組織もまず自分から

1. 企業も子育て支援に対策を

現状と課題	具体的解決策
<p>女性の就労条件は整備されつつありますが、多くの企業では、まだ女性が子育てしながら働くのは困難な現実があります。</p> <p>企業自ら、子育てに対する理解を深め、労働条件や職場環境の整備に努めることが求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 子育て支援についての現状や課題を整理します。② 企業に対して研修と啓発を行います。③ 行政と企業などで構成する（仮称）『子育て支援会議』を発足します。④ 『子育て支援会議』による子育てに配慮した就業環境の整備を進めます。

2. 課題解決はまず家庭から

現状と課題	具体的解決策
<p>子どもの学力低下や不登校、非行、児童虐待・高齢者虐待、など「家庭崩壊」という現実が広がっており、家族の絆を問い直すことが必要です。</p> <p>問題によって、具体的な対応策はまちまちですが、まず家庭でできることをしっかり踏まえることが解決への出発点になります。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 「自助」の自覚について市民アンケート調査を行います。② 「自助」の可能性についてワークショップによる意見交換会を行います。③ 市民アンケートの結果をもとに、講演会の開催やパンフレットを配布して、「自助」の大切さを啓発します。④ 各家庭で「自助」の充実のために努力します。

3. 既存の組織も自己点検に務めよう

現状と課題	具体的解決策
<p>福祉施設はそれぞれ専門機能を有しており、地域における福祉サービスの拠点としての役割も期待されています。医療、保健施設も含めて、その事業形態を問わず、それぞれのサービスの質の点検と、地域との交流など新たな事業展開が求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 福祉・医療・保健施設関係者による意見交換会を開催します。② 日向市社会福祉施設等連絡会の加入充実を図ります。③ 福祉・医療・保健施設の自己点検と自己改革を進めます。④ 研修会や講演会を開催し、啓発を行います。

4. 外に出て、活動に参加しよう

現状と課題	具体的解決策
<p>保健・福祉に限らず、災害時や環境面など、近年さまざまな領域や分野にボランティア活動が広がり、同時にそれが社会的な課題解決の可能性を秘めた活動であることも認識されるようになってきました。</p> <p>行政、市民の総力を挙げて、ボランティア活動の質的量的充実が求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① ボランティア活動を促進するための課題を整理します。② 市民啓発のため講演会や活動発表、事例報告会を開催します。③ （仮称）『市民活動推進センター』を設立します。④ 『市民活動推進センター』を中心に活動を推進します。

5. 健康の増進

現状と課題	具体的解決策
<p>安心して暮らす基本は、健康にありますが、飽食や運動不足などを主な原因とする生活習慣病やガンの多発が大きな問題になっています。</p> <p>健康づくりの主役は市民です。行政・専門家は市民を指導するのではなく、市民が自ら健康づくりに取り組み、改善できるようコーディネーターの役割を担います。</p> <p>一人ひとりの自覚が問題解決の出発点です。</p>	<p>① 市民主体の健康づくりを推進します。</p> <p>② 健康なまちづくりを推進します。</p> <p>※具体的には、個別計画である「健康ひょうが21計画」で実施します。</p>

6. みんなで守ろう地域のルール

現状と課題	具体的解決策
<p>違反ごみ出しや空き缶の投げ捨て、交通マナー違反など基本的な生活ルールの欠如に起因する課題があります。基本的なルールが守れないような地域社会では、お互いの信頼関係が築けず、共に助け合う地域社会は望めません。</p> <p>市民一人ひとりがきちんと地域のあるいは社会のルールを守り、隣人に不要な迷惑をかけることなく、地域での「共生」、共に生きる隣人関係を模索し、築き上げていくことが必要です。</p>	<p>① 地域ごとにワークショップを開き、問題の解決策を検討します。</p> <p>② 各地域で出された解決策をもとに解決マニュアルを作成し、また、相談窓口や相談体制も整備します。</p> <p>③ 解決マニュアルを充実させ、区長会、班長会、各区の広報などで啓発を続けます。</p>

7. いざと言う時、あわてないために

現状と課題	具体的解決策
<p>大規模自然災害の多発に伴い、防災に対する関心が高まってきましたが、障がい者や高齢者の自然災害に対する備えが不十分です。</p> <p>市民一人ひとりが防災の主役であることを自覚し、同時に行政、市民一体となって防災体制を整備しなければなりません。</p>	<p>① 消防団員、自治区の役員、障がい者など要援護者本人も参加して、課題や対応策を話し合い、整理します。</p> <p>② 災害時要援護者に対する防災計画やできるだけ具体的な防災マニュアルを作成します。</p> <p>③ 自治区ごとに災害図上訓練を行い、地域の自主防災体制を整備します。</p> <p>④ 防災マニュアルを利用して、災害時要援護者などへの情報伝達、啓発に努めます。</p>

3. 環境を整えよう

1. 生活環境の整備

現状と課題	具体的解決策
<p>生活環境の整備は、主に行政の役割ですが、地域福祉という観点から地域住民のアイデアや活動で改善できる課題も多くあります。</p> <p>行政と地域住民が互いの知恵やアイデアを出し合うことで、より効率的な整備・改善を進めます。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 地域住民が主体的に危険箇所の点検を行い、市民と行政が協働して、計画的な整備を進めます。② 環境整備解決のいろんな可能性を検討し、地域でできるところから整備を進めます。③ 地域では解決できない環境整備は、行政や各機関による協議を行い、計画的な整備を進めます。

2. 遊び・学び環境の整備

現状と課題	具体的解決策
<p>子どもが安全に遊んだり社会性を学んだりして、人間性を豊かにするような環境が少なくなっています。</p> <p>地域の高齢者との交流など行政のみならず地域住民との協働による環境の整備が求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 公園や児童館、学校の空き教室を利用した放課後児童クラブの実施など、遊び環境について検討し、計画的に整備します。② 空き家や公民館などを利用した場所の提供、高齢者などの地域住民の人材活用を検討し、実施します。③ 育成会や高齢者クラブなどの地域住民が見守りを行い、子どもや親が安心して遊べる環境づくりを進めます。

3. 災害時の支援体制

現状と課題	具体的解決策
<p>高齢者や障がい児者など災害時要援護者の把握と避難支援体制の整備が必要です。</p> <p>行政や消防本部、消防団、自主防災会、家庭や個人それぞれの役割分担を明確にし、連携して対応できる体制整備を進めます。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 各地区に自主防災組織を設立します。② 避難経路や避難場所の確認、要援護者の把握のために各地区で災害図上訓練を実施します。③ 災害時要援護者の支援体制を整備します。④ 災害時の緊急通報システムの整備、避難場所等の点検、非常食の備蓄など環境整備を進めます。⑤ 消防本部、消防団、自主防災組織などの関係者による連絡会議を開催し、連携強化に努めます。⑥ 災害時ボランティアのコーディネートなど被災者支援体制の整備を進めます。

4. 進めよう理解・共生

1. 子育ての男女共同参画

現状と課題	具体的解決策
<p>「子どもは、母親が育てるもの。」という考え方があり、父親の育児参加が進んでいません。育児の悩みや不安、困ったことがあっても誰にも相談できず、社会的孤独感が高じて育児ノイローゼなど心身に変調を来たすような母親も出てきています。</p> <p>子育ては男女共同で行うものという意識に変えていくための啓発活動や支援体制の充実に力を入れる必要があります。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 男女平等や人権尊重についての啓発を進めます。② 父親が育児に積極的に参画するように啓発を進めます。③ 男女共同参画社会づくり事業と推進ルーム「さんぴあ」の一層の充実を図ります。

2. 虐待防止の取り組み

現状と課題	具体的解決策
<p>日向市でも、児童虐待や高齢者虐待、家庭内暴力が発生していますが、自宅などの外部からは見えにくいという特徴があります。最終的には、児童相談所や福祉事務所が責任を持って対応しますが、隣近所、地域住民のかかわりが大切です。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 要保護児童対策地域協議会を設置します。② 住民の協力により、児童虐待、高齢者虐待を早期に発見できるようにします。③ 子育て中の保護者や高齢者を介護している人が孤立しないようにします。④ 隣近所での声かけにより普段から何でも相談できるような地域社会をつくり、虐待の予防を進めます。⑤ 男女共同参画社会づくり推進ルーム「さんぴあ」の広報を強化し、相談支援体制の充実を図ります。

3. 子どもを大切に

現状と課題	具体的解決策
<p>日向市でも凶悪犯罪は発生していないものの、子どもが被害者となるような軽犯罪発生の兆候が見られます。</p> <p>「子どもの権利に関する条約」の根幹である「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を守るための取り組みが必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 学校へのスクールカウンセラーの配置や日向市適応指導教室、ホームスタディ制度、日向市教育相談室などの相談支援体制を充実します。② 「子どもの権利に関する条約」についての普及・啓発を行います。③ 子ども達に自分自身を大切にできる気持ちを持たせる教育や子ども達自身が自らの身を守るための方法を教えるCAP（キャップ）プログラムについて研究します。

4. 障がい、障がい児者に対する偏見、差別をなくそう！

現状と課題	具体的解決策
<p>障がい・障がい児者に対するハード面の障壁は改善されてきていますが、心の障壁〔差別・偏見〕は、なかなかなくなっています。</p> <p>障がいのない人は、障がいの特性と障がい児者の置かれている現状を正確に理解する必要があります。また、障がい児者は自ら地域に出て、できるなら自分の障がいの特徴と「どういう支援があればいいのか」など周囲に自らの情報を具体的に提供していく必要があります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 市広報に障がいに関する正しい知識を掲載し、啓発を行います。地域では、当事者及び関係者の話を聞く会などを開催し、学習します。 ② 障がい者の自主的活動や社会参加の促進と市民への啓発研修、情報提供、交流の拠点施設として（仮称）障がい者総合センターの整備を図ります。 ③ 障がい児者、高齢者、民生委員・児童委員、自治区役員を含む地域住民相互の交流を推進します。 ④ 各自治区に障がい部会を発足させ、地域福祉を円滑に推進します。また、地域の課題を解決するために、区長と民生委員の連携を深めます。 ⑤ 障がいのある人も自ら地域に情報を発信し、理解を促します。

5. 精神障がい者に対する偏見、差別をなくそう！

現状と課題	具体的解決策
<p>精神障がい者への偏見差別は、現在もなお深刻なものがあります。</p> <p>誰もが「心やすらかに住みなれた地域で暮らす」ことを望んでいます。精神障がいの「正しい知識」を持ち、偏見差別をなくすことが必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 市広報などで精神障がいの正しい知識の啓発を進めます。また、当事者には、福祉サービスなどの情報を提供します。地域では、当事者や関係者を招いて、精神障がいについての学習をします。 ② 地域と精神医療機関が交流をします。当事者も日常的に地域とのコミュニケーションを大切にします。

6. 家族の理解と協力を！

現状と課題	具体的解決策
<p>在宅障がい児者や高齢者は、家族と暮らしていても「孤独」だと感じている人が少なくありません。当事者にとって、家族の存在は心の拠りどころであり、情緒の安定の源です。</p> <p>公的なサービスなどを利用しながら、家族が全員で役割を分担し相互に助けあうことが必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 市広報などで福祉サービスの情報を提供します。 ② 地域で、気軽に声をかけたり、当事者の家に遊びに行き、悩みを聞いたりして、家族の代わりに様子を見るような関係をつくります。 ③ 支援を必要とする人を地域の行事に招待したり、デイサービスに誘ったりして、社会参加を呼びかけます。 ④ 家族が困った時に、何でも相談でき、解決に向けてマネジメントできるような相談窓口をつくります。 ⑤ 同じ課題を持つ人たち同士が話合う機会を設け、課題解決を図ります。

7. 認知症を理解しよう！

現状と課題	具体的解決策
<p>認知症の人とその家族は、周囲の誤解や偏見によりさまざまな困難に遭遇しています。「地域ぐるみで、見守っていく」という環境がなくては、認知症の人とその家族は、その地域で暮らしていくことはできません。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 市広報への掲載や講演会を開催し、認知症の予防対策と正しい知識の啓発を行います。 ② 認知症の状態に応じた適切なサービスの充実に努めます。 ③ 家族の介護負担を減らすために、介護教室や認知症相談事業などを充実します。 ④ 介護者同士の情報交換の場を確保します。

5. 支え合おう、助け合おう

1. 地域子育て力の充実

現状と課題	具体的解決策
<p>子どもを取り巻く環境はますます厳しさを増してきています。</p> <p>地域の力を有効に活用し、「地域で子育て」をすることが必要です。</p> <p>行政と地域団体、NPO、市民が力を合わせ、公私の役割分担を明らかにしながら、家族への支援、地域の大人たちとの交流促進など多様な取り組みが求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 地域の特性を生かした子育て支援交流事業の拡充に努めます。② 地域で子育てに取り組んでいる関係者による（仮称）「子育て支援地域経験交流会議」を設立し、課題や対応策を整理します。③ モデル地区を設置し、中高生や教師の地域行事への参加促進、地域と子どもとの連携強化を図ります。④ モデル地区での取り組みを全市的に展開します。

2. 地域で支え合おう

現状と課題	具体的解決策
<p>若い人を中心にして自治会に加入する人が減ってきており、住民同士意思の疎通が図れず、近所同士のふれあいがなくなってきています。</p> <p>誰もが安心して暮らせる地域社会は、この地域における支えあいなくして実現できません。</p> <p>行政、地域住民、NPOなど市民団体が一緒になって、一人ひとりを大切にする支え合いの仕組みづくりが求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 自治区に「地域福祉部」を設置するなど地域における具体的な取り組みを推進します。② モデル地区を設定し、見守り、定期的な交流事業、地域ごとのネットワークづくり、世代間交流の場の設置などの課題や具体案などについて考えます。③ モデル地区でのワークショップで出された解決方法、取り組みを幾つかの自治区で推進します。④ モデル地区での取り組みの結果を検証し、成果を市内全域へと展開していきます。⑤ よりきめ細かい、重層的な支え合いの仕組みをつくるために多様な市民組織やNPOなどの立ち上げを進めます。

6. つながろう、拡げよう

1. ネットワークづくり、交流、連携強化

現状と課題	具体的解決策
<p>市内には、福祉・保健・医療・教育などの多種多様な施設や団体があり、そこで働いたり活動している人がいますが、それぞれが持っている専門知識や役割が地域住民の福祉向上にうまく活かされていない面があります。</p> <p>新たな地域社会づくりのために団体も個人も地域を単位とするようなネットワークをつくり、交流と連携を拡げ強めることが必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none">① 各地域で地域福祉の推進にどのようなネットワークが必要か、対応策を検討、整理します。② モデル地区を設定して仮称「ネットワーク会議」を立ちあげ、実践的な連携、交流を推進します。③ モデル地区の取り組みを、全市的に展開していきます。④ 各ネットワークづくりの重要性について、先進事例発表会や講演会を開催して市民、地域住民、関係者、団体を対象に啓発を進めます。

2. 異なる分野の連携、交流

現状と課題	具体的解決策
<p>地域福祉を推進するためには、医療、保健、福祉、教育、またその他関係する専門家・専門機関の、お互いの専門性を越えた異業種間の連携・交流が大きな意味を持っています。</p> <p>厳しい財政状況も背景に、限られた人材、財源でより質の高いきめ細かなケア・サービスを提供するには、専門性の壁を越えた連携に基づく対応が必要になってきています。</p>	<ol style="list-style-type: none">① (仮称)「地域福祉推進専門家会議」を立ちあげ、地域福祉の推進に専門機関、専門家として果たせる役割などについて意見交換を行い、また交流の場の設置、ネットワーク形成に係る課題、今後の進め方などを検討します。② 地域ごと(大字、中学校区)で地域の課題について協議を行う場を設置し、具体的な連携のあり方を検討します。また、ネットワーク化を進め、研修会などを実施します。③ 異業種間の連携と交流についての講演会開催など啓発を進めます。

7. サービスを見つけよう、見直そう、創りだそう

1. 子育ての支援

現状と課題	具体的解決策
<p>近年、産業構造や就労形態の変化に伴って、働く親の就労環境も変化しています。また、子育ての悩みや虐待への対応も必要ですが、既存の子育て支援策、保育サービスだけでは、多様な子育ての現状に十分に対応できなくなってきている面があります。</p> <p>サービスの改善や新たなサービスの創設が必要です。しかし、行政によるサービスだけでは限界があります。ボランティアや地域住民による子どもの預かり、保育所・園への送り迎え、子育てサロンなど、地域での取り組みが必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 病後児保育や延長保育など多様な保育メニューを充実します。 ② 放課後児童クラブの開設時間の延長を検討します。 ③ 乳幼児医療費助成制度対象年齢の拡大や病中病後の育児支援策など子育て負担の軽減を図ります。 ④ 保護者への情報提供や相談支援体制の整備を図ります。 ⑤ 子育てのニーズを把握し、必要な情報を一元化して発信します。 ⑥ 子育ての交流や情報提供の場として、子育てサロンを充実します。また、既存の公共施設を活用した高齢者や障がい児者との「多機能型サロン」の開設を検討します。

2. 障がいのある子どもへの支援

現状と課題	具体的解決策
<p>障がいのある子どもの将来の社会的自立を実現するためには、個々の障がいの種類、程度や能力、適性および発達段階に応じて、適切な環境を整備することが必要です。</p> <p>また、障がい児本人やその家族が住み慣れた地域で地域住民とふれあい生活するためには福祉や教育など公的機関での取り組みだけでなく、その人たちの住む地域住民も含めた包括的な支援が必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 専門知識をもった担当者による情報提供、助言など相談体制の充実を図ります。 ② 障がい児の状況に対応した就学・教育支援の充実に努めます。 ③ 県が実施している障がい児通園事業の充実を要望していきます。 ④ 障がいのある子どもがいる家庭の経済的負担の軽減に努めます。 ⑤ 障がい児が地域において皆と一緒に教育を受けることのできる教育環境づくりを進めます。

3. 専門人材の養成

現状と課題	具体的解決策
<p>福祉に対するニーズが多様化している今日、それらに対応できる人材の発掘・育成は急務とされています。</p> <p>住民のニーズを的確に把握し、その人に合ったサービスをコーディネートできる人材も必要になります。</p> <p>正確な知識と経験を持ったスペシャリストの養成・確保はもちろん、地域においても多様な人材を養成していくことが求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 子育てに豊富な知識を持った人たちを子育て支援の人材として養成します。 ② ファミリーサポートセンター事業を推進し、充実します。 ③ さまざまな福祉ニーズ（必要性）に対応して的確な支援をコーディネート（選択・調整）できる人材を養成します。 ④ ワンストップサービス窓口のために、専門知識を持った担当職員を養成します。 ⑤ 福祉、医療、保健、教育などの各分野が連携して、専門家を養成します。

4. 既存制度の点検充実、上乘せ・横出しサービスの検討、新サービスの創設

現状と課題	具体的解決策
<p>介護保険制度や障がい児者の自立支援給付制度など既存の福祉サービスは、法律・条例などに基づいて提供されており、一定の条件と限度がありますが、例えば本市では、自立支援給付制度の対象にならない難病患者に対して、補装具の提供など市独自でサービスを提供しています。「自助、公助」という視点も踏まえ、『上乘せ・横出し』するサービスや新しいサービスの創設が求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 日向養護学校（日向ひまわり支援学校）に高等部を設置するよう働きかけを行います。 ② 支援費制度の適用対象外となる部分の支援方法について新たなサービスを検討します。 ③ 既存の公的制度について、上乘せ・横出しサービスが可能かどうか検討します。

5. 制度のすき間を埋める各種サービスの創設、充実

現状と課題	具体的解決策
<p>公的福祉制度は、高齢者や障がい児者、児童等の対象者別に決められているため、状況によっては制度からもれる場合がありますので、制度間のすき間への対応が必要です。</p> <p>制度の隙間を埋めるには、いまある制度の『上乘せ・横出し』のサービス展開と併せて、NPOなどによるいわゆる「すき間サービス」の展開、また地域住民によるきめ細かい隣近所の助け合い的な福祉活動が求められています。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 「支援を必要とする世帯」に対して見守りや訪問活動、簡易な生活支援など、地域ぐるみの取り組みを充実させます。 ② 市民の力で多様な福祉サービスが創り出され、提供されるよう、市民グループやNPOなどに対する支援を行います。 ③ 若年層に対する「福祉」に関する講座や体験を地域や企業、学校と一体となって企画します。 ④ 養護学校高等部までの交通手段の確保を検討します。 ⑤ 「ふれあいいきいきサロン」や「子育てサロン」などの拡充を図ります。 ⑥ 「住民参加型在宅福祉サービス」を地域で創設することを検討します。 ⑦ 高齢者や障がい児者などにとって、利用しやすい交通手段の確保を検討します。

6. 小児夜間救急医療体制の整備

現状と課題	具体的解決策
<p>日向地区小児夜間救急センターが廃止されました。全国的に小児科医の不足が言われていますが、小児救急医療体制の整備は最重要課題です。</p> <p>行政の対応策と併せて、保護者が安心して働けるよう病後のこどもを預かるNPOの設立や地域でも病後の子どもを見守る体制も必要です。</p> <p>一方、不要不急の受診を避けるため、普段から子どもを穏やかに育てる良い環境をつくり、急病時の対応を十分理解しておくことも必要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 県、県医師会との協議を行い、日向地区夜間救急センターの再開を含む夜間小児救急医療体制について検討します。 ② 急病時の受診の必要性や小児夜間救急医療体制の状況について市民への啓発を実施します。

7. 交流の場の創設

現状と課題	具体的解決策
<p>高齢者のひきこもりや子育ての悩み、ストレスが増えています。地域とのつながりが薄くて気軽に相談できる人がそばにいない場合がほとんどです。</p> <p>住み慣れた地域で、高齢者が楽しんで出かけ、生きがいづくりができる場、また地域住民同士が気軽に集まり、つながりを広げる場をつくり、お互いが安心して暮らせる地域づくりに努める必要があります。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 高齢者の「ふれあいいいきサロン」を実施・推進します。 ② 空家などを利用し、地域住民がいつでもだれでも立ち寄れる「あずまの」場所をつくります。 ③ 既存のデイサービス事業所に依頼し、地域でのサテライトデイサービスの拡充に努めます。

8. 就労相談、雇用創設、雇用促進

現状と課題	具体的解決策
<p>日向公共職業安定所が主体となり、就労支援を行っていますが、障がい者の就職は厳しく、特に精神障がい者の就労には多くの課題があります。また、高齢者も働きたいが、再就職先が見つからないという人がいます。</p> <p>企業に対して、積極的な啓発を行い、障がい者や高齢者などの就労支援に努めていく必要があります。また、働く場それ自体を増やすことも重要です。</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 日向市に市外・県外の企業を新たに誘致し、雇用の拡大を図ります。 ② 障がい児者に対する理解を求め、就労を促進するための研修会や勉強会、交流会などを企画し、企業への啓発を進めます。

